



同窓会報



北
陵

会報 第29号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編 集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 杉 山 印 刷



百周年を迎えるにあたって

同窓会副会長

井 野 博

明けましておめでとう
ございます。

同窓会長に代わり年頭
の所感を私事をまぜて申
し上げたく思います。

本校は、平成十九年に
創立百周年を迎えます。
すでにその準備に取りく
みを始めました。

同窓会、PTA、学校
側が一致協力を致して実
行委員会を構成されまし
た。会長にはもとより同
窓会長の小坂利雄が就任
をされて、その人板と貫



い
い
あ
い
わ
つ

学校長

大 澤 英 一

同窓会の皆様には、日頃
より母校への御支援を賜り
まして誠にありがとうございます。
さて、本校は明治四十一年に芳賀郡立農林学校として真岡町寺久保に開校し、平成十九年に百周年を迎えることとなります。この間、大正十二年に県立真岡農学校、昭和二十三年に県立真岡農業高校、昭和三十三年に工業の機械科を併設し、昭和四十一年に機械科が真岡工業高校として独立、農業高校自体は下籠谷の地に移転いたしました。

平成七年に、学科が大幅に改編され、生物生産科、農業機械科、食品科学科（以上農業）、情報処理科・ビジネス会計科（以上商業）、教養福祉科（家庭・福祉）の六科六クラスの総合選択制専門高校に内容替えし、校名が真岡北陵高校となりました。さらに、平成十六年度第一

つて来ました。思えば昭和二十年四月の入学以来五十五年を数えるに至りました。

学校長小林善蔵先生のときに、昭和三十年九月に青年部の結成に発起人として参画し、若輩でも役員待遇を受けて来たところ、学校長加藤七蔵先生のときには、青年部長として五年間をその責務に当たりました。

以来私は、役員として無欠席と言われる程に本校の発展の様子と歴史的な経過を目の当たりに致して同窓会会の運営にも協力をして来ました。とりわけ創立八十周年式典フル男子団体優勝に続く快挙であります。文化部は、学校祭での展示・発表、さらに吹奏学部を主体に日本音楽部（琴）、ボランティア部（ハンドベル）と手話が真岡市民会館で合同演奏会を開き、多くの保護者や地域の方々から拍手喝采を受けております。

三年生（二九名の進路）一月末時点は進学50%、就職44%、在家等6%となっております。進学は、すでに推薦入学やAO入試等で合格した大学は宇都宮、群馬、青森公立、法政、日本、独協、東京農業、文教、立正、日本体育、東京国際、略農学園、国際武道、作新学院、上武の各大学、千葉大園芸学部別科等、短大は9校、専門学校等は県立衛生福祉大学、県農業大学（11名）等を含めて40校を数えております。

就職は、大多数は地元・県内で、職別では事務、販売、サービス、保安、農林、運輸、通信、製造、労務作業となっております。ところで、我が国は、先の

見えにくい人口減の時代に
入り込みつつあります。人
口が減り続けると成長力
や創造力が弱まり、世の中
のあらゆる分野が衰退の方
向に向かいかねません。高校
では、入学志願者が減り、学
校間の競争も激しくなり、
地域から教育機関として高
い評価を受けられなくなる
と、その後は場外へという
ことになってしまいます。

幸いに、本校は、農学校・
農業高校としての長い間、
多くの多彩な卒業生を輩出
し、同窓生の皆様が産業や
地域の発展に大いに貢献さ
れ、農業団体役員、首長、議
会議員、企業家、公務員、県
農業士等農家、地域活性化
のリーダー等、多方面で御
活躍なされていることは、
学校にとり心強いものであ
ります。また、学科改編後の
最近の卒業生の直向きな勤
めぶり等を耳に狭むことも
あります。

本校は、在校生の力を高
めつつ、これからの地域に
役立つ高校として歩みま
すので、同窓会のご支援を
お願いいたします。

同窓会青年部としては
本校への協力は限られた
活動内容になると思いま
すが、役員一同精一杯役
目を果たしていきたいと
思っておりますので、同
窓会各位の皆様、事務局
の先生方には今後とも青
年部にこそご支援、ご協力
のほどお願い申し上げます。



部長に就任して

青年部長

平成十三年度卒

猪 野 雄 介

平成十六年度四月より
同窓会青年部部長に就任
しました平成十三年度卒
業の猪野雄介です。よろ
しくお願い致します。

本年度活動におきまし
ては、同窓会役員の先輩
方、事務局の先生方、ま
た同窓生の皆様方には、
日頃より、暖かいご指導
ご支援を頂きまして、厚
く御礼申し上げます。

さて、本年度は役員改
正があり新役員体制とな
りました。

今年度の青年部活動で
は、前年度同様、役員会
（親睦会）を中心に役員
間の交流を深めつつ、学
校行事への参加をいたし
ました。学校祭での模擬
店出店では青年部特製
「焼きそば」を焼き、六
百以上を完売させること
ができました。

今年度は東北方面の研修
旅行へ行き、福島県の「ア
サヒビル工場」などを
見学してきました。研修
旅行には、個々の仕事の
都合を調整し多数の参加
をいただきました。来年
もぜひ、「行きたい」と
言う声も多かったのだと
来年も行きたいと思いま
す。

また、あと三年後には
北陵高校も百周年という
記念すべき行事を控えて
おります。同窓会青年
部としてもなにか出来
る事を考えて、実行し

ていきたいと思っていま
す。

ここで平成十六年度、
一緒に会務をして頂いた
役員の皆さんを紹介させ
て頂きます。

猪 野 雄 介 平十三卒
副部長
石 川 達 大 平十三卒
大 根 田 勝 平十三卒
君 嶋 夏 樹 平十三卒

監事
大 島 雅 広 平十三卒
荒 川 普 丸 平十四卒
横 山 敦 史 平十四卒

常任委員
古 川 善 治 平十三卒
小 島 勇 樹 平十四卒
芦 野 雄 介 平十四卒
関 口 裕 友 平十五卒
阿 久 津 徹 平十五卒
金 鋪 良 昭 平十六卒
菊 地 章 太 平十六卒
矢 野 貴 彩 平十六卒
黒 崎 美 香 平十六卒
小 林 紘 子 平十六卒
萩 原 恵 平十六卒

以上の十八名を中心と
して今年度一年間運営し
てまいりました。

同窓会青年部としては
本校への協力は限られた
活動内容になると思いま
すが、役員一同精一杯役
目を果たしていきたいと
思っておりますので、同
窓会各位の皆様、事務局
の先生方には今後とも青
年部にこそご支援、ご協力
のほどお願い申し上げます。

「一世紀をあゆむ」

北陵高校 100 周年目前!!



看護実習(H10年)



パイオ実習(H10年)



自動車整備(H3年)



わら工競技会(S30年)



開墾実習(S15年)

実習作業風景

着々進む

百周年記念事業に向かっての準備

準備会議

十六年四月三十日

十六年度同窓会総会

百周年記念事業議決

内容

記念式典

記念誌発行等

十六年十月十三日

十六年度第一回役員会

百周年記念事業について

百周年記念準備委員会について

十六年十一月二十二日

百周年記念事業準備委員会

実行委員会の組織について

実行委員六十二名選出

記念事業について

十六年十二月二十一日

第一回実行委員会

記念事業の内容検討

(一) 式典

(二) 記念誌

(三) 記念品

(四) 講演、鑑賞等

(五) 関連事業

(六) 同窓会名簿

(七) その他

十七年二月十五日

第二回実行委員会

記念事業の内容検討

名誉農業者になつて

昭和三十三年卒

平野耕 紹

感謝します。

私は昭和三十年四月現在の工業高校のある八幡ヶ丘に真岡農業高校があった。その時に、入学致しました。それから早いもので半世紀が過ぎようとしています。平成十九年には創立百周年を迎えようとしている事が、何か感無量の気が致します。在学二年生の時に創立五十周年記念事業が実施された事を思い出すと、人生「光陰矢のごとし」を実感します。

農業士に認定されて

昭和五十年卒

高原 信之

私は、本校を卒業後、社会勉強するつもりで二年会社勤めをしてから就職しました。

私の住む与能地区は、町(芳賀)の中央より南部に位置し、平坦な土地で、一区画三十アールの基盤整備がされて大規模農家が多い地域です。

我が家は、農地面積の約九十%が自宅周辺の半径二キロ以内に集積され作業の効率化に恵まれています。その恵まれた土地条件を生かして、水稲・麦・大豆の複合経営と作業受託を取り入れた経営を行っています。

平成二年より集落内九人によるYFF(与能ファーマーズ)の試作部会が幅広く取り入れられるよう取り組んでいるところです。

大豆部門としては、連作障害を避けるため地域や集団での話し合いで、団地化を図り効率的な生産をしています。

栽培技術の研究、麦・大豆の規模拡大と農地の集約化、団地化を進めています。

習を受けた事が笑い話のようです。卒業したらせめてオート三輪車は乗れる農業経営をやりたいと思っていました。今では、家族一人に一台の乗用車がある時代になりました。

私も卒業後農業一筋でやってきましたが、昭和五十四年に県の農業士に認定され、平成十六年一月に名誉農業者として認定されるまで、二十五年間農業士として活動して参りました。

昭和四十七年に農業の規模拡大を目ざして、山林六ヘクタール程開墾し作障害を避けるため地域や集団での話し合いで、団地化を図り効率的な生産をしています。

今更で無縁かと思つていた「農業士」私には少し荷が重いか?という不安が消えぬまま一月七日県公館での認定式、認定書を授与され改めて責任の重さを感じたものでした。その日から今日まであつという間の一年でした。



物部支部の活動について

昭和二十年卒

星野 義治

幹事

谷中美恵子 堀川 キサ

深谷 嘉子 柳 蘭子

菊地美恵子 久保野和栄

岡田 和子 仁平 文子

岡田 幸子 枝 潔子

佐々木寿美 飯山 明美

荒井美智子 大原 佳子

去る十一月二十日J.A.はが野農協会館に於いて、北陵高校同窓会物部支部女性部会設立代表者会議を開催致しました。本校同窓会野沢副会長の祝辞及び事務局の田村先生と野沢先生から学校の最近の状況や生徒達の部活動等のお話を聞きまし。議事として各自治会から選出された代表者の確認と役員の選任が行われ全員賛同を得て決定しました。

部会長 猪野正子 (物井)
副会長 高崎友代 (高田)
会計 池田文子 (横田)
白茂裕子 (三谷)
光管信子 (物井)

今後の活躍を御期待致します。



生きる力を育てよう

PTA 会長
石川 勝

子どもが「生きる力」をはぐくむためには、学校、家庭、地域が相互に連携し、つなぐ。家庭や地域社会における教育力を充実させ、社会全体で子どもを育てていくことが重要である。このため、異年齢の子どもや異世代の地域の人々とのかわりの中で、様々な体験の機会を提供し、子どもの自主性、創造性、社会性を涵養するとともに、触れる、体験するといった感覚を通して情操を養うなど、地域の大人の力を結集して子どもを育てる環境を整備することが求められる。

また、今日の変化の激しい社会にあつて、いわゆる知識の陳腐化が早まり、学校時代に獲得した知識を大事に保持していれば済むというとは許されず、不断にリフレッシュすることが求められるようになってきている。生涯学習時代の到来が叫ばれるようになったゆえである。加えて、未来予測がなかなか明確につかない、先行き不透明な社会にあつて、その時々々の状況を踏まえつつ、考えたり、判断する力が一層重要となっている。さらに、マルチメディアなど情報化が進展する中で、知識、情報にアクセスすることが容易となり、入

北陵祭に参加して

青年部 荒川 普丸

十一月六日に行われた北陵祭では、穏やかな日和の中、毎年恒例の青年部特製の「焼きそば」を自分たちの手で調理し、販売を行いました。

今年は、台風などの自然災害で農作物に多大な被害をあたえました。焼きそばで必要なキャベツが高騰し、お店での仕入れだと採算が取れなくなるとの大きな問題でありましたが、栃木県農業大学に問い合わせをした所、キャベツを市場価格より



手した知識、情報を使つてもっと価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められるようになっていく。

このように考えるとき、我々はこれからの子供たちに必要になるのは、いかに社会が変化しようとして、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思

しました。

私達は、鉄板での焼きそばの調理はほとんど経験がなかったのが最初の焼きそばは、売り物になるのかと不安でした。焼く回数をごまかしていくと徐々においしくいきあがりました。お昼頃になるとぶようになれて、北陵祭が終わる頃には焼きそばはほぼ完売になりました。私生活では、一致団結して作業することはほとんどないので学生時代を少し思い出しました。来年度も同様の参加を予定しておりますのでよろしく願います。

研修旅行に参加して

青年部 石川 達大

私達は、十一月十一日から十二月十二日までの二日間、福島と宮城に研修旅行に行きました。

一日目は、福島のアサヒビール工場、智恵子記念館を見学しました。ビール工場ではビールがどのように作られるのを知ることができ、智恵子記念館では、高村智恵子が生涯をかけて作った紙絵や油絵が展示されており、作品全てが綺麗でとても感動しました。



二日目は、宮城で松島を観光しました。松島では遊覧船で松島の景色を見たり、松島を象徴する代表的な建物として知られる五人堂などを観光し



いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えます。

たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を生

る力とはぐくんでいくことが重要である。



クラブ員代表者会議を運営して

農業クラブ会長

三年一組 廣田 真人

私たちは十月十九日、二十一日にかけて神奈川県で開催された第五十五回日本農業クラブ全国大会に参加してきました。

数多くの競技の中で、私たちはクラブ員代表者会議の運営を任せられました。運営といっても一つの分科会の一会場分の司会、書記の仕事です。私たちはこの会場が成功するために、様々な研修・合宿・準備をしました。

夏休みに行われた夏季研修会に参加し、クラブ員代表者会議の意義、運営の仕方、他の会場を運営する生徒との交流を通して運営するという責任の大きさを改めて実感しました。

私たちは十月二十日に神奈川県で行われた農業クラブ全国大会の農業鑑定競技（農業機械科コース）に学校代表として出場しました。校内鑑定競技の後、先生から、「農業鑑定競技に出場してみないか」と言われました。私はその話を聞いて自分の兄が農業鑑定で最優秀賞を受賞したこともあり、自分も農業鑑定競技に出場したいと思っていました。



農業鑑定競技に参加して

三年二組 柳田 浩志

私は、十月二十日に神奈川県で行われた農業クラブ全国大会の農業鑑定競技（農業機械科コース）に学校代表として出場しました。校内鑑定競技の後、先生から、「農業鑑定競技に出場してみないか」と言われました。私はその話を聞いて自分の兄が農業鑑定で最優秀賞を受賞したこともあり、自分も農業鑑定競技に出場したいと思っていました。

しかし、自分が出場していいのかという不安もありました。出場するからには、兄の受賞した最優秀賞を受賞したいと思い勉強に力を入れることができました。勉強はまず、一つ一つの部品や構造をノートに書き写し、わからない部品などは教科書や先生に聞いたたりして勉強をしてきました。大会まで一月をきり勉強にも一層力を入れ学校で夜遅くまで勉強する日々が続く、時には投げだしたくなるときもありまし



な機会でした。私たちは研修させてもらいました。

私たちは神奈川県に向かいました。会場に着くと全国の多くの農業クラブ員が揃っていました。私たちは受付をし、事前打ち合わせ会に参加しました。その場で事例発表校である大阪府立園芸高校の皆さんと打ち合わせをしました。そして夜に交歓会を行いました。各校の代表として神奈川県に集まった農業クラブ員と交流しました。



会議当日はあいにくの雨もようでした。しかし会場につくなりすぐに、クラブ員のやる気に圧倒されました。九時から会議が始まりました。私たちは今まで研修してきたこと、準備してきたことを生かせるよう精一杯頑張りました。

最後になりましたが、この会議の運営でお世話になった谷口先生を始め関係者の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

でも、友人達に励まされ勉強を続けることができました。

大会の前日に出発し神奈川県まで新幹線で行き、新幹線の中ではずっと勉強をしました。宿泊所に着いて夕食後は深夜まで勉強し今までやってきたことを思い出しながら問題を確実に解くようにしました。

自分が受賞できたのは家族や先生、友人たちが自分を支えてくれたおかげです。高校生活でしかできない貴重な体験を今後の自分の将来に役立てていきたいと思っています。

農業クラブ全国大会

農業クラブ顧問 田 村 勇 治

第五十五回日本農業クラブ連盟全国大会は、平成十六年十月二十・二十一日に神奈川県で盛大に行われました。

大会会場は、プロジェクト発表会、意見発表会は神奈川県立県民ホール。平板測量競技会は吉田島農林高等学校。農業鑑定競技は相原高等学校。農業情報処理は中央農業高等学校。クラブ員代表者会議は湘南国際村センター。そして大会式典はパシフィコ横浜で行われました。

今年度我が校は、農業鑑定競技会と運営側として参加しました。

生徒会長として

生徒会長 三年五組 瀧 容 枝

生徒会長として活動したこの一年は本当に日々早かったです。これは、活動一つ一つが充実していたからだと思っています。

五月には益子養護との交流会で例年通り、カレー作りや鉢植え、トマトの収穫をしました。六月に行った体育祭では今年新たにクラス対抗バケツリレーを取り入れました。

単純な競技でしたが、水を満タンになるまで、各クラス苦戦を強いられていました。クラス全員団結して競技する姿がとても印象的でした。

七月には真岡夏祭りでも印象的でした。



できました。農業コースには、生物生産学科三年毛塚裕美さん、食品科学コースには、食品科学科三年野原亜紀さん、農業機械コースには、農業機械科三年柳田浩志さんが参加し、農業機械コースでは柳田浩志さんが優秀賞をいただきました。

また運営側として、農業クラブ会長の広田真人



なり、生徒会役員の中でデザインをし、夏の暑い中、顧問の先生方、生徒会役員が看板を完成させました。市制50周年を祝うにふさわしい看板であり、我が校章、飼育されている牛や豚、背景には校訓が描かれていました。

そして、一年の中で最大のイベント「北陵祭」では、「VIVA★北陵 COUNTRY」のテーマのもと、開催されました。今年も同窓会の皆様には私たち生徒のためにご多忙の中、暖かいご支援を頂き、誠にありがとうございました。今年も昨年の北陵祭の盛り上がり負けぬよう、毎日遅くまで、北陵祭実行委員の皆さんと力を合わせて準備を進めていました。

家庭クラブ活動を通して

三年六組 高山 佳 美

この三年間は、家庭クラブ活動を通して、多くのことを学んだ大変有意義な時間だったと思います。

前回の会長さんから会長の座を受け継いで、早一年がたちます。初めてのうちは、家庭クラブという一つの組織をまとめることができたことも不安でしたが、家庭クラブ

員のみならず、先生方のお陰でここまでやり遂げることができました。調理講習会では、前年度より、多くの回数を計画し、たくさんのクラブ員の参加を得て、交流の場としても、とてもよい時間となりました。また、アルミ缶回収では集まったお金でハンドソープを購入し、学校の美化活動

家庭クラブ

顧問 加藤 洋 子

家庭科の学習で学ぶことは、(1)男女共同参画社会の推進・少子高齢化を考慮して、家庭や生活の営みを人の一生との関わりの中で総合的にとらえさせ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解させる。(2)実際の生活の場で生きて働く力となるように生活に必要な知識と技術を習得させる。

(3)家庭科クラブ活動とおして男女が協力し家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。以上の三項目です。

それは、身近な問題に気付くことから始まりです。環境について学んだら分別ゴミ処理やごみを出さない生活について考える。食物を学んだら郷土料理の調理方法や季節の料理を考え、家庭クラ

ブ活動を通して家庭での食を大切にすることを育てるなど、無限にできます。そんな時役員会を開いて内容を検討したり計画を立てて、家庭クラブ員の活発な活動につながるように、家庭科の教員と連絡をとりながら行事を考えます。

今年度実施した内容と実施する行事をまとめてみます。

五月	家ク紹介・総会
六月 <td>調理講習会</td>	調理講習会
八月 <td>県連家ク総会</td>	県連家ク総会
十月 <td>家庭クラブ立会演説会・役員選挙</td>	家庭クラブ立会演説会・役員選挙
十一月 <td>調理講習会・学校祭</td>	調理講習会・学校祭
十二月 <td>金・新潟中越地方への募</td>	金・新潟中越地方への募

に役立てることができました。これも、私達をご指導下さった先生方のお陰だと感謝しています。本当にありがとうございます。



ボランティア部の活動

二年六組 矢 島 知 美

私たちはボランティア部は、ハンドベルの演奏を通じて、おもちゃ図書館訪問を行っています。

おもちゃ図書館とは、青年女性会館で毎月第二、第四土曜日にひらかれ、障害をもった子供たちと一緒に遊ぶ場です。

先日十二月十一日にはおもちゃ図書館で、クリスマス会を行いました。

クリスマス会ではハンドベルの演奏やビンゴゲーム、みんなで一緒に歌を歌ったりなどと、とても楽しい時間を過ごすことができました。ハンドベルの演奏では、「主よ人の望みの喜びよ」を演奏しました。子供たちは私たちの演奏を楽しそうに聞いてくれました。

子供たちはハンドベルにとても興味を示していて、ベルに触れてみたいしていました。

ボランティア部は、毎週火曜日と水曜日が活動日です。二年生十八人、一年生十六人で構成されます。私たち十六人はとても団

結力が強く新しい曲を演奏する時は、一人一人意見を出しあっているいい音色を出すため日々努力をしています。

また、おもちゃ図書館は、ハンドベルだけでなく、ボランティアも行っています。

子供たちは私たちを心から迎え入れてくれて一緒に遊ぶ楽しさを、子供たちと遊んでいる私たちが疲れしてしまうほど、とても活発な子が多いです。このおもちゃ図書館に行くたびに子供たちからいっぱい元気をもらいます。

三年生は、引退してしまいましたが、文化祭の時にパーブサートで色々な話をしました。とても心温まる物語が多く、みなさんも一度覗いてください。

私たちはボランティア部は、人とふれあう機会が多いので、もし人と話をしたりふれあったりするのが好きな人は、一度ボランティア部を見にきてください。



オランダ農業研修に参加して

二年一組 水上大嗣

僕は、七月八日から七月二十八日までの約三週間、オランダ農業研修に参加しました。オランダに行く前に語学研修などの事前研修を何回か重ねて期待と不安が入り交じりながら宇都宮駅からバスで成田空港へ向かいました。そして、飛行機の中で仲間と一緒に「家族はどんな人だろう。」「英語はちゃんと話せるだろうか。」「などと話し合いながら機内ですごしました。そして、オランダのスキポール空港に着きました。最初は、少し緊張していましたがVanさんとValkさん夫婦が

進路状況について

進路指導部長 石塚良典

就職においては景気回復の兆しが見られるなか、企業は業績の違いにより、新卒者の採用を積極的に進め、企業と依然として採用に踏み切れない企業の二極分化が一層進みました。八月末の本校への求人会社数は県内百三社（昨年六十八社）、県外七十一社（昨年七十二社）と、厳しいと言われた昨年に比べ県内においては大幅に上回る状況となりました。このようななか九月十六日から始まった就職試験では、百三名が受験し、八十八名が内定すること

オランダ派遣農業研修に参加して

三年二組 國母智範



の人工授精に立ち会ったり、放牧した牛を牛舎に戻す作業などを行いました。そのほかには気付いたことは、周りの近所の人たちとお金を出し合っているトラクターに取り付ける大型機械を買ったり、牛の餌になる干草やグラスを、わけあっているというところでした。本当に近所の人達との信頼関係がないとできないことだなと思いました。最後に、この研修は僕にとつて一生忘れられないものになりました。この経験を今後の学校生活にいかしていきたいと思っています。そして、今まで以上に勉強して立派な農業経営者になりたいと思います。

私は、七月八日から二十八日までの三週間「オランダ派遣農業研修」に参加し、オランダの大規模な農業を肌で感じることで、とても良い経験をすることができました。

た。しかし、出発前は、「ホストファミリーとちゃんと会話できるのかな？」この事がとても不安でしたが何回かの語学研修で少し自分の英語力に自信ができました。出発当日少しの不安と大きな期待を胸に私は飛び立ちました。初めての空の旅は十二時間と長く、なれないためにとても疲れました。空港へ着くと、私は初めて見るオランダの景色の美しさに感動しました。ホテルで一泊し、ホストファミリーとの歓迎会の日が来ました。私はBLAAUW家にお世話になりました。牛はYanさん

の家では夫婦が管理しています。Theresiaは、乗馬の先生で毎日乗馬のレッスンで忙しいそうでした。私が手伝った仕事は、搾乳、牛の追い込みなどでした。搾乳は、家の手伝いで時々やっているのでも手際よく仕事が出来ました。毎日忙しいせいか二週間のホームステイもあっという間に終わってしまいました。本当の家族のように接してくれたYan家の皆さん本当にありがとうございました。この経験を今後の高校生活に活かしていきたいと思っています。最後になりましたがご指導頂いた先生方や関係者の方は、両親に感謝いたします。

野球部

三年五組 蔵 潤 直



私たち野球部は、鈴木監督と押久保部長の指導のもとで毎日厳しい練習に励んでいました。学校が終わって放課後の練習だけでなく、その後も残って夜の練習をしたり翌日の朝に練習をしたり、甲子園球場で部員達全員で野球をするために努力してきました。

夏の大会の初戦は同じ芳賀郡の茂木高校と対戦しました。練習試合では一度も勝つことができなかったが指導頂いた先生方や関係者の方は、両親に感謝いたします。

の内定をいただくことができました。一方、進学においては大学や短大への進学を希望する全員が進学できる全入の時期を目前に控え、各大学や短大は学科の改編やカリキュラムの変更等で特色を打ち出す努力をしているものの、受験倍率の高い大学や短大と、倍率が定員を満たない大学や短大との二極分化が進みました。

このようなか十月からの大学、短大、専門学校等へのAO入試や推薦入試等に百四十三名が受験し、百三名が合格することができました。さらに、今年度は公募制推薦入試やAO入試で受験した生徒が増えたばかりでなく、国公立大学にも積極的にチャレンジする生徒も増加し、厳しい倍率の中で見事に合格することができ、放課後遅くまで学習に臨んだ生徒の努力が報われる結果となりました。

各学科の状況は、農業系学科においては、農業の専門を生かして、大学には宇都宮大学等に九名が合格、短大には三名、専門学校等には三十三名が合格することができました。商業系学科においては、商業の専門を生かして、大学には群馬大学等に十名が合格、短大には二名、専門学校には二十九名が合格することができました。

平成16年度進路状況 平成17年1月11日現在

進 学	大 学		短 大	そ の 他				合 計
	国 立 4	私 立 4	私 立 短 大	別 専 科 科	専門学校 専修学校	能力開発 施 設 等	予 備 校 そ の 他	
男 子	2(1)	9(13)	0(3)	0(2)	26(21)	9(10)	1(2)	47(52)
女 子	1(0)	7(4)	14(11)	1(0)	29(28)	0(0)	0(0)	56(47)
小 計	3(1)	16(17)	14(14)	1(2)	55(49)	13(14)	1(2)	103(99)
合 計	19(18)			70(67)				

就職	就 職					合 計
	管 内	県 内	県 外	公務員	自 営	
男子	18(13)	22(22)	2(5)	1(1)	3(7)	48(57)
女子	16(25)	24(33)	5(3)	0(1)	0(1)	58(77)
小 計	34(38)	46(55)	7(8)	1(2)	3(8)	106(134)
合 計	91(111)					

※()内の数値は昨年度の最終人数

私たちは野球部は、鈴木監督と押久保部長の指導のもとで毎日厳しい練習に励んでいました。学校が終わって放課後の練習だけでなく、その後も残って夜の練習をしたり翌日の朝に練習をしたり、甲子園球場で部員達全員で野球をするために努力してきました。

夏の大会の初戦は同じ芳賀郡の茂木高校と対戦しました。練習試合では一度も勝つことができなかったが指導頂いた先生方や関係者の方は、両親に感謝いたします。

アテネオリンピック

最終予選に参加して

三年三組 貝 塚 有里子

私は、静岡県スポーツ
パル高根の郷で行われた
「アテネオリンピック最
終予選」に参加しました。

私がこの大会の最終予選
に参加出来たのは、マレ
ーシアで行われたアジア
選手権に参加したことと
高校生から社会人まで出
場権がある全日本選手権

大会で優勝した事と、高
校新記録を持っていたるか
らです。もちろん、日本
記録も持っている選手の方
や、オリンピック選手
の方など日本トップレベ
ルの選手も参加していま
した。

国体に参加して

三年五組 伴 千 草

十月二十三日から埼玉
県長瀬町で行われた埼玉
国体に出場しました。今
年はオリンピック開催の
年でもあり、その選手達
も参加していました。

私は国体初出場だった
ので、楽しみと不安が混
じり合った気持ちで開会
式までを過ごしていました。
栃木県代表として、部
の代表としてのプレッシ
ョンがありました。練習
で点数を出していても落



インターハイに参加して

三年二組 石 川 雅 輝

第四十二回、全国高等
学校ライフル射撃競技選
手権大会が七月二十二日
〜二十五日の四日間、静
岡県「スポーツパル高根
の郷」射撃場で行われま
した。この大会には全国
から五百人以上の選手が
参加し、関東大会の何倍
もの人が集まりました。

去年のインターハイでは、
エアライフル男子団体
で競われます。たった一
点のミスでも大きく順位

「優勝」チームライフル男
子団体「第二位」エアラ
イフル女子団体「第三位」
チームライフル女子団体
「第五位」。団体全種目入
賞をしました。今年も団
体全種目入賞を目標に、
部員一丸となり日々の練
習に取り組まれました。

いました。射座に入ると
一人一人の選手が集中し
ていて、オリンピックに
出たいという気持ちが私
にまで伝わってきました。

最初は、自分がこの大
会に出ている事に違和感
がありました。しかし、
この雰囲気の中で撃てる
事は自分にとってとても
大きな経験が出来ると思
ったし、自分の力試しを
する最高の場だと思いま

切れ、それと同時に涙が
溢れてきました。今まで
の大会では味わった事
のない感動であり、試合
が待ち遠しくなりました。

試合前には公開練習が
あり、試合同様に練習が
できます。いつも「公開練
習で場の雰囲気を感じた
者が勝利を掴める」と言
い聞かせ望んでいました。
しかし、会場は慌ただしく、
国体のイメージとはとて
も思えませんでした。私
の試合日は二日目だった
為、先輩の試合を見学でき
国体の雰囲気を感じる事

の変わる競技です。大会
本番では、足が震えるほ
どの緊張が襲いました。
その緊張は時間が経つに
つれ「集中」に変わって
いくのが分かりました。結
果としては、納得のいく
射撃はできませんでしたが、
他の選手との張り合いも
ありエアライフル男子
団体「第五位」という結果
が残せました。チームラ
イフル男子団体「第四位」、
エアライフル女子団体
「優勝」チームライフル女
子団体「第二位」。今年も「団

体全種目入賞」という目
標を達成することができ
ました。エアライフル
女子団体の優勝旗や大き
な楯は、とても輝いて見
えました。

このような素晴らしい
結果が残せたのも、顧問
の菅谷先生のご指導や保
護者の皆様の協力があつ
たからだと思ひ、心から
感謝いたします。ありが
とうございました。

今年のインターハイに
は三年生より多くの二年
生が団体戦メンバーとし

た。緊張はあったけど
撃ち始めの一発目から最
終まで周りの空気にの
まれずに、自分のリズム
で撃てました。

決勝では、一位で残る
ことができました。

体調を崩してしまい、
全ての力を出し切れるか
不安もありましたが、楽
しみの感情の方が強く射
座に入った時には、風邪
を引いている事など忘れ
ていました。リズムを作
る事が大切であり、足が
震えていても引き金を引
く事を止めませんでした。
「ミスをしてはいけない」、
と考えてしまうのは仕方
のない事でしたが、ミス
をしてからの切り替えが
試合を左右する大きな鍵
でした。

体全種目入賞」という目
標を達成することができ
ました。エアライフル
女子団体の優勝旗や大き
な楯は、とても輝いて見
えました。

このような素晴らしい
結果が残せたのも、顧問
の菅谷先生のご指導や保
護者の皆様の協力があつ
たからだと思ひ、心から
感謝いたします。ありが
とうございました。

今年のインターハイに
は三年生より多くの二年
生が団体戦メンバーとし

た。緊張はあったけど
撃ち始めの一発目から最
終まで周りの空気にの
まれずに、自分のリズム
で撃てました。

決勝では、一位で残る
ことができました。

体調を崩してしまい、
全ての力を出し切れるか
不安もありましたが、楽
しみの感情の方が強く射
座に入った時には、風邪
を引いている事など忘れ
ていました。リズムを作
る事が大切であり、足が
震えていても引き金を引
く事を止めませんでした。
「ミスをしてはいけない」、
と考えてしまうのは仕方
のない事でしたが、ミス
をしてからの切り替えが
試合を左右する大きな鍵
でした。



ことができました。

体調を崩してしまい、
全ての力を出し切れるか
不安もありましたが、楽
しみの感情の方が強く射
座に入った時には、風邪
を引いている事など忘れ
ていました。リズムを作
る事が大切であり、足が
震えていても引き金を引
く事を止めませんでした。
「ミスをしてはいけない」、
と考えてしまうのは仕方
のない事でしたが、ミス
をしてからの切り替えが
試合を左右する大きな鍵
でした。

体全種目入賞」という目
標を達成することができ
ました。エアライフル
女子団体の優勝旗や大き
な楯は、とても輝いて見
えました。

このような素晴らしい
結果が残せたのも、顧問
の菅谷先生のご指導や保
護者の皆様の協力があつ
たからだと思ひ、心から
感謝いたします。ありが
とうございました。

今年のインターハイに
は三年生より多くの二年
生が団体戦メンバーとし

た。緊張はあったけど
撃ち始めの一発目から最
終まで周りの空気にの
まれずに、自分のリズム
で撃てました。

決勝では、一位で残る
ことができました。

体調を崩してしまい、
全ての力を出し切れるか
不安もありましたが、楽
しみの感情の方が強く射
座に入った時には、風邪
を引いている事など忘れ
ていました。リズムを作
る事が大切であり、足が
震えていても引き金を引
く事を止めませんでした。
「ミスをしてはいけない」、
と考えてしまうのは仕方
のない事でしたが、ミス
をしてからの切り替えが
試合を左右する大きな鍵
でした。

体全種目入賞」という目
標を達成することができ
ました。エアライフル
女子団体の優勝旗や大き
な楯は、とても輝いて見
えました。

このような素晴らしい
結果が残せたのも、顧問
の菅谷先生のご指導や保
護者の皆様の協力があつ
たからだと思ひ、心から
感謝いたします。ありが
とうございました。

今年のインターハイに
は三年生より多くの二年
生が団体戦メンバーとし

た。緊張はあったけど
撃ち始めの一発目から最
終まで周りの空気にの
まれずに、自分のリズム
で撃てました。



今年度における部活動等で表彰された主なものを掲載しました。(もちろんここに載せてある以外にも熱心に活動、活躍している部も沢山あります。)北陵生の活躍をご覧ください。

ライフル射撃部 (BRはビーム・ライフル ARはエア・ライフルの略)

全日本ジュニアビームライフル射撃大会
BR男子 個人3位 菊部祐太
BR男子 個人7位 石川雅輝
BR男子 個人8位 田崎友樹
BR男子 団体2位(石川・菊部・野澤直樹組)
BR女子 団体3位(川崎真祐子・沼井麻里・鈴木美穂組)

関東高等学校ライフル競技選手権大会
BR男子 個人2位 高橋勝也
BR男子 個人4位 田崎友樹
BR男子 個人8位 篠崎智夫
BR女子 個人4位 沼井麻里
BR女子 個人8位 川崎真祐子
AR男子 個人3位 菊部祐太
AR男子 個人4位 石川雅輝
AR女子 個人1位 貝塚有里子
団体優勝(田崎・植木宏典・高橋組)
AR男子 団体優勝(石川・野澤・菊部組)
AR女子 団体優勝(鈴木・伴千草・貝塚組)

全国高等学校ライフル競技選手権大会
BR男子 個人7位 田崎友樹
AR女子 個人2位 貝塚有里子
BR女子 団体4位(田崎・野澤・植木組)
BR女子 団体2位(川崎・沼井・瀧谷枝組)
AR男子 団体5位(石川・高橋・菊部組)
AR女子 団体優勝(鈴木・伴千草・貝塚組)

日韓親善ライフル射撃大会
AR女子 出場 貝塚有里子
ジュニアオリンピックカップライフル射撃選手権大会
BR男子 個人7位 植木宏典
AR男子 個人5位 菊部祐太

全日本ライフル射撃競技選手権大会
BR男子 個人2位 田崎友樹
BR女子 個人2位 沼井麻里

国民体育大会ライフル射撃競技大会
BR男子 個人8位 石川雅輝
BR女子 個人6位 伴 千草
AR女子 個人4位 貝塚有里子

全国高校ライフル射撃大会関東ブロック大会
BR男子 個人3位 高橋勝也
AR男子 個人3位 白石裕紀
AR女子 個人1位 川崎真祐子
AR女子 個人2位 鈴木美穂
以上4名が全国選抜大会出場権獲得(3月)

栃木県知事賞(全国大会優勝者表彰)
インターハイ優勝 AR 女子団体
伴 千草 貝塚有里子 鈴木美穂

県高校スポーツ賞 ライフル射撃部男子 受賞
監督 菅谷浩喜
選手 伴 千草 貝塚有里子 鈴木美穂

県高校スポーツ優秀選手 優秀選手12名
貝塚有里子 伴 千草 鈴木美穂 川崎真祐子 瀧谷枝 沼井麻里

弓道部 インターハイ弓道大会予選会
決勝進出 石下和俊

野球部 全国高等学校野球選手権栃木大会
ベスト16進出(52年ぶり)
優秀選手 長谷川博文

バレーボール部 真岡市6人制総合バレーボール大会 一般女子の部 3位

陸上部

栃木県高等学校総合体育大会陸上競技 男子棒高跳び 4位 長山宗史
関東高校選抜陸上競技大会 男子棒高跳び 出場 長山宗史

剣道部

関東高等学校剣道競技県予選 女子団体 ベスト16
全国高等学校総合体育大会剣道競技県予選 男子団体 ベスト16
女子団体 ベスト16

日光大会

男子団体 女子団体 出場
関東高等学校バドミントン選手権大会 出場 女子団体
全国高等学校総合体育大会バドミントン競技会県予選 女子団体 5位
女子シングルス ベスト8 三五英里子

バドミントン部

国民体育大会バドミントン競技栃木県選手権選考会 女子シングルス 第3位 三五英里子

サッカー部

全国高校サッカー選手権大会栃木大会 2次予選 出場

日本音楽部

高文連日本音楽部会 春季発表会 優良賞 秋季発表会 優良賞

吹奏楽部

県吹奏楽コンクール B部門 銀賞
第10回定期演奏会 ボランティア部(ハンドベル)・日本音楽部(琴)が友情出演
高文連音楽祭 吹奏楽の部 優秀賞

商業科

県吹奏楽連盟ソロコンテスト 芳賀真岡支部選考会 銀賞(フルート) 羽石実紗

商業科

関東地区高等学校ワープロ競技大会 個人 出場 藤本クリス

全国商業高等学校英語スピーチコンテスト栃木県予選会

レシテーションの部 最優秀賞 田端アンナパウラ

全国商業高等学校英語スピーチコンテスト

レシテーションの部 出場 田端アンナパウラ

農業クラブ

栃木県学校農業クラブ連盟大会
プロジェクト発表「文化・生活」 最優秀賞 池田裕美 ほか9名

関東地区学校農業クラブ連盟大会茨城大会
プロジェクト発表「文化・生活」 優秀賞 池田裕美 ほか9名

日本学校農業クラブ全国大会神奈川大会
農業鑑定競技 農業機械コース 優秀賞 柳田浩志

その他の表彰

芳賀地区芸術祭 短歌 特選 廣田真実 藤田陽子
俳句 特選 高野悠未
ほかに5人が入選(詩を含む)

栃木県交通安全県民大会ポスターコンクール 入選 高崎はるか
昨年度載せることが出来なかったもの(16年3月分)

卓球部

15年度栃木県ジュニア卓球選手権大会栃木県大会
15年度栃木県高等学校新人卓球大会
男子シングルスランキング19位 金子明宏

編集後記

本年度も射撃を始めとして、生徒の活躍が際立つた年でもあります。また本校創立百周年を記念する準備会が具体的にスタートしました。これ等の内容を中心に編集し、会員の皆さんに提供するよう配慮致しました。また今年から同窓会青年部の編集員の皆さんと一緒に編集しました。今後若い皆さんの感性に期待したいと思います。

編集委員

井澤 誠 館 芳衛
広田茂十郎 猪野 正子
猪野 雄介 石川 達大
大根田 勝 君嶋 夏樹
上野 恵美

